

リトルシニアの投球数制限に関する統一ガイドライン

日本リトルシニア中学硬式野球協会

投手の投球数制限に関しては、次に掲げるリトルシニア独自のガイドラインに基づくものとする。

- ① 1日最大90球以内。 (投手 A～F)
- ② 連続する2日間で130球以内。 (投手 ABCE)
- ③ 3連投(連続する3日間)する場合は、1日目と2日目の投球数合計を90球以内とし、3日間の投球数合計を130球以内。 (投手 D・E)
 なお、4連投(連続する4日間)は禁止。
- ④ 上記 ① ② ③の場合において、打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了までは投球を認め、制限数を超過した (投手 A・D・E)
 投球は投球数にカウントしない。
- ⑤ 大会中は1日90球投球後、翌日投球を休めば3日目は90球の投球を可能。 (投手 F)
- ⑥ 打者に対して投じた投球がボークとなった場合は、投球数にカウントする。また、12秒及び、20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。
- ⑦ 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球は投球数にカウントする。
 (例：2ボール・1ストライクとなり申告敬遠をした場合、それまでに投じていた3球は投球数にカウントする。)
- ⑧ 雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。
- ⑨ 異なる大会であっても、連日投球する投手は、この統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようお願いします。

投手の投球数制限における投球可能数のケース

(投球数)

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	予備日	
投手 A	90	40		※ 90 (95)	※ 40 (42)		90	・・・ 上記 ①・②・④
投手 B		79	51		44	86		・・・ 上記 ①・②
投手 C			45	85		89	41	・・・ 上記 ①・②
投手 D	68	※ 22 (26)	※ 40 (42)		24	22	※ 84 (88)	・・・ 上記 ①・③・④
投手 E	82	第一試合 21		46	第一試合 25	※ 41 (46)		・・・ 上記 ①・②・③
		第二試合 27			第二試合 18			
投手 F	90		90		90		90	・・・ 上記 ①・⑤

※ 投手 A の第4日目・第5日目及び、投手 D の第2日目・第3日目・予備日、ならびに投手 E の第6日目の()外は投球可能数、
 ()内は打席の途中で制限数に達し、当該打者の打席終了まで実際に投じた投球数を示す。

投球数確認シート

【本部提出用】(試合終了後チームで保管)

大会名: 2022秋季支部大会

チーム名 :

日本リトルシニア中学硬式野球協会

球場名																					
試合月日		/		/		/		/		/		/		/		/		/			
対戦相手																					
背番号	投手名	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	
1		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
2		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
3		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
4		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
5		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
6		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
7		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
8		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
9		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
球場責任理事(役員) 確認サイン																					
球場責任審判員 確認サイン																					
監督 確認サイン																					

【本シートの運用方法】 注)打席の途中で制限数に達し当該打者の打席終了まで投球した場合、制限数を()外、実際に投じた投球数を()内に記入する。

- ①試合終了後、本シート(原本)に投球数を球場責任審判員が記入・サイン後、球場責任理事(役員)及び、監督へ確認を求め、サインを受ける。
 - ②監督は、サインされた本シート(原本)を次の試合まで保管する。
 - ③監督は、次の試合開始前に本シート(原本)とコピー2部を大会本部へ提出する。
- 注)連戦の場合は試合前の攻守決定時に投球数確認シートを相手チームに開示する。

球 数 メ モ

日本リトルシニア中学硬式野球協会 関東連盟

大会名： 2022秋季支部大会

チーム名：

試合日： 年 月 日 (第 試合)

球場名：

< 記入例 >		※上段：投球数を正の字で記入 ※下段左：その回の投球数 ※下段右：累計の投球数											
背番号	投手名	投球数	一	二	三	四	五	六	七	TB-1	TB-2	TB-3	投球可能数
1	関東 太郎	90 球 (92)	正正正 15 / 15	正正正T 17 / 32	正正正正 20 / 52	正正正正 20 / 72	正正正正 20/90(92)	/	/	/	/	/	40球

注)五回、打席の途中で制限数の90球に達し、当該打者の打席終了まで投じた結果、累計の投球数が92球となった例。
※打席の途中で制限数に達し当該打者の打席終了まで投球した場合、制限数を()外、実際に投じた投球数を()内に記入する。

【 記入欄 】													
背番号	投手名	投球数	一	二	三	四	五	六	七	TB-1	TB-2	TB-3	投球可能数
1		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
2		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
3		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
4		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
5		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
5		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
6		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
7		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球

【本シートの運用方法】

各試合毎、球場責任理事(役員)、及び責任審判員、アナウンス(サブ)は投球数確認の為の補助簿としてこの様式を使用してください。

投球数制限下での理事及び、審判員の試合前 / 試合中 / 試合終了後の流れ

日本リトルシニア中学硬式野球協会

1. 試合前におけるメンバー表、選手登録証等の監督からの受理（理事及び、審判員）

監督からメンバー表、選手登録証等を預かる際、大会1回戦及び、初戦のチームの監督に「投球数制限を適用」する旨を念のため伝える。
2回戦以降は、監督から投球数確認シートを預かった際に、理事及び、審判員は各投手の本日の投球可能数を確認しておく。

2. 試合前の攻守決定及び、メンバー表交換（理事及び、審判員）

2回戦以降は、投球数確認シートのコピーを対戦相手チームに渡し、各投手の投球可能数を開示する。
各イニングの表及び、裏が終了した時に投手の投球数をアナウンスすることを伝え、異議がある場合は速やかに球審に申し出てもらうことを監督にお願いし、投手が第一投を投じた後は異議を唱えることはできないことを伝える。
(特に、打者に対して投じた投球がボークとなった場合、公式記録の上では投球数にカウントしないため誤差が生じることとなる)

3. 試合中の投球数管理（理事及び、審判員）

投球数のカウントは間違えの無いような体制で行う。
放送係は各イニングの表及び、裏が終了した時に「〇〇投手、この回の投球数は〇〇球、累計で〇〇球です」とアナウンスを入れる。
監督から球審に異議の申し出があった場合は、控え審判員及び、記録員、ならびに理事に確認して、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

4. イニング途中での投手交代（理事及び、審判員）

投手交代時に放送係は選手交代のアナウンス後、「このイニングの〇〇投手の投球数は〇〇球で、累計〇〇球でした」とアナウンスを入れる。
監督から球審に異議の申し出があった場合は、上記の3.と同様、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

5. 投球可能数に達した時（理事及び、審判員、ならびに記録員）

投球可能数に達した場合、「〇〇投手は規定の投球数に達しましたので交代となります」とアナウンスを入れる。ただし、打席の途中で投球可能数に達した場合は、当該打者の打席が終了した時点でアナウンスを入れる。

6. 試合終了後（理事及び、審判員、ならびに記録員）

試合終了時もイニング終了時と同様に、「このイニングの〇〇投手の投球数は〇〇球で、累計〇〇球でした」とアナウンスを入れる。
投球数を記入済みの投球数確認シートの原本に球場責任審判員がサイン後、球場責任理事(役員)及び、監督へ確認を求め、サインを受ける。
投球数確認シートの原本は監督に返却する。球数チェックシートの原本は、当日の責任審判員が保管する。

以上